

## ●8月5日（水）スナメリ観察と海の環境学習（周防大島）

年間を通してスナメリを観察できる場所の一つ、周防大島を訪れました。

目的は大きく2つ。1つ目は、自分の目でスナメリを観察すると共に、タッチングプールの魚にふれたり海中の様子を見たりすることで海の環境を知ること。2つ目は、そうした環境と木原沖の筋羅島とを比べてみることに。

今回、学習のために訪れたところは3か所。  
地図にまとめてみました。



© Yahoo, Japan

### <スナメリに会えるポイント> 久賀港～前島

久賀～前島間はスナメリに会える確率の高いところだそうです。それでも会える確率は平均30%。スナメリに会えるか、とても心配でした。

久賀港からチャーター船に乗り前島へ。片道約20分。みんなで手分けして海をじっくり見たのですが、残念ながら一頭も発見できませんでした。

ところが、前島からの帰りに奇跡が起こりました。なんとスナメリがあちこちで姿を現してくれたのです。すごくうれしかったです。



上：水面に姿を現したスナメリ  
左：船からスナメリを捜索中

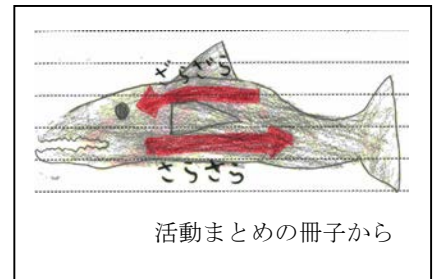
## <魚にさわれたよ！> なぎさ水族館

次に、日本最大級のタッチングプールがあるなぎさ水族館を訪れました。

ここには、こぶだい、いしだい、ふぐ、なまこ、いとまきひとで、とちぎめなど魚や海の生き物約 20 種類が泳いでいる大きなプールがあり、直接手でさわることができました。初めはこわいような気がしましたがだんだん慣れてさわることができました。サメの皮膚は変わっていて、頭からしっぽに向かってさわるとザラザラし、しっぽから頭に向けてさわるとさらさらしていました。驚きです。

その他、クラゲやタイの赤ちゃん、カブトガニ、おのみちきさんごなども展示してありました。

生きた魚や海の生き物にふれることができ、楽しかったし、周防大島にはたくさんの生き物がいることがよくわかりました。



## <アワサンゴのいる豊かな海> 地家室沖

最後に、ニホンアワサンゴの群生地に行きました。ここからは NPO 法人自然と釣りのネットワークの藤本さんに案内してもらいチャーター船でニホンアワサンゴの群生地まで行きました。

海の中の様子は、ダイバーの方がもぐってカメラで撮影し、船の上のテレビで見せてくださいました。テレビにはたくさんのアワサンゴや植物、魚がうつっていました。周防大島には豊かな海と魚がいることがよくわかりました。ここにはアワサンゴが約 3~4 万個位いるそうです。すごい！



ニホンアワサンゴ (HP より)

上：アワサンゴが映るテレビ画面  
左：船上のテレビを見ているところ

## 調査してわかったこと・これから調べたいこと

- ・周防大島の海は水がきれい。(上から下まで見えた。)
- ・スナメリが多い。(2～3頭で泳いでいた。10頭以上を確認した。)
- ・ニホンアワサンゴは、昼間は触手を開いて光合成をしているものが多い。だから陸の植物と同じことをしていると思った。
- ・周防大島は海がきれいで魚も豊富で、スナメリが住みやすいということが分かった。
- ・周防大島は海草類がたくさんあり、エサも豊富で、安全に暮せるのではないかと思った。
- ・前島航路にどうしてたくさんのスナメリがいるのか。
- ・ニホンアワサンゴが地家室に多いのはなぜか。
- ・ニホンアワサンゴとスナメリは深い関係にあると思った。そのことをもっと調べたい。
- ・木原の海には大きな船が通っている。そのことがスナメリと関係があるかもしれない。
- ・水質や潮の流れを調べ、スナメリがすめる環境なのか、木原の海で一番似ている所はどこかを見つけない。

